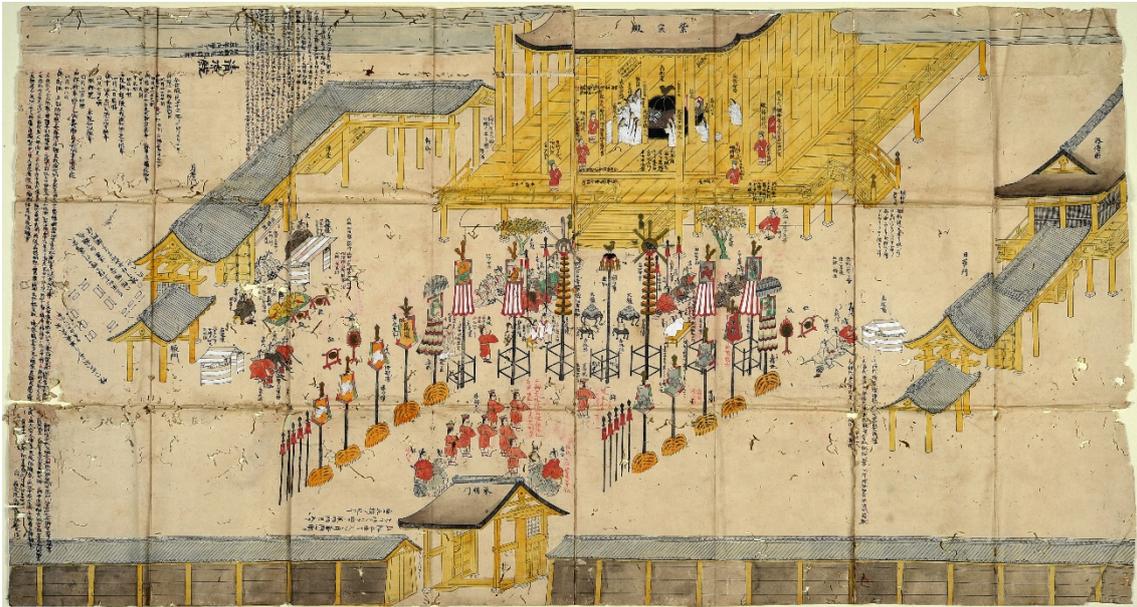


新発見！第113代東山天皇即位図の速報展示（大津市歴史博物館）

【会期：2019年3月19日(火)～5月12日(日)】

東山天皇即位図（覚深注記） 園城寺（法明院）蔵

貞享4年（1687） 紙本版画手彩色 縦65.3cm×横119.5cm



貞享4年に、東山天皇が霊元天皇から譲位され、天皇として即位した場面を表した版画です。彩色部分は人の手で直接塗られたものと思われます。霊元天皇の譲位と東山天皇の即位については、2018年秋に、細見美術館、京都市美術館、みやこめっせで開催された「京都の御大礼-即位礼・大嘗祭と宮廷文化のみやびー」において展示された「東山天皇御即位式・霊元上皇御譲位行列図屏風」【狩野景信画 6曲1双 貞享4年（1687） 個人蔵（皇學館大学神道博物館寄託）】が知られています。

今回、園城寺（法明院）で見つかったものは、縦65cm、横120cmという大きさの版画で、その中に、比叡山延暦寺横川鶏足院の僧である覚深（かくじん：1637-1707）によって、細かく注記が書き込まれている点に特徴があります。霊元天皇の譲位から東山天皇の即位については、貞享4年3月21日から同年4月28日まで（いずれも旧暦）行なわれており、覚深はその版画を「貞享二■■（虫損）丁卯初夏中旬」に手に入れ、自ら注記を入れたことが奥書からわかります。なお、「初夏中旬」がいつ頃なのかは人によって捉え方が異なるかもしれませんが、通常「初夏」は旧暦4月頃を指すため、霊元天皇の譲位後、実際の即位式より前に覚深がこの版画を手に入れ、実際に見た様子を描き込んだ可能性もあるかもしれません。

霊元天皇の譲位から東山天皇の即位について、細かく注記の入った版画というものは類例がなく、一生に一度あるかないかという天皇の代替わりという儀式を生々しく伝える点で、今回見つかった史料は大変貴重なものといえるでしょう。